

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設
第3回資料選定検討委員会議事録

1 実施日：令和元年7月26日（金） 13：30～15：30

2 会場：自治会館5階 502会議室

3 出席者

委員：青木淑子（富岡町3・11を語る会代表）
小野広司（福島民友新聞社編集局長）
菊地芳朗（福島大学教授）
中井俊郎（JAEA福島研究開発拠点副所長）
藤澤 敦（東北大学教授）
※欠席者 鞍田 炎（福島民報社編集局長）

事務局：野地 誠（文化スポーツ局長）
宍戸哲也（生涯学習課長）
本多智洋（生涯学習課主幹兼副課長）
太田栄一（生涯学習課主任主査）
遊佐昌志（生涯学習課主任主査）
武藤隆浩（生涯学習課主任社会教育主事）
松浦奏太（生涯学習課副主査）
舘山遥奈（生涯学習課主事）

受託者：(株) トータルメディア開発研究所
国立大学法人 福島大学
(公財) 福島イノベーション・コースト構想推進機構

オブザーバー：復興庁
経済産業省
福島イノベーション・コースト構想推進室

4 議事

(1) 委員会開催計画について【資料1】

- 委員会開催計画について、事務局より説明。
- 展示構成については、第3回委員会の意見を踏まえ、今年夏を目途に確定。第4回委員会では実物資料選定の検討を行う。

(2) 施設内各展示ゾーンの展示内容について

- 事務局より展示内容について説明。【資料2、3、4】

委員からの御意見

① プロローグ

- この施設がただの記念館ではなく、災害の記憶や経験をしっかりと「アーカイブ」し、学びや教育に用いるとともに未来につないでいくということを、来館者にどうやって伝えるか。そこが抜けている気がする。プロローグで発信してはど

うか。(菊地委員)

- 恐らく、この施設については色々な意見が出てくる。中には否定的なものも。ただ、そういう人たちを含め、5年10年経ったときに「あそこに行けば当時の出来事に想いを馳せられる」という認識を持ってもらう、そうして長く伝えていくのがこの施設の大きな役割。ぜひそういう点を意識してほしい。また、アーカイブ拠点施設の役割を伝えるのは、有料エリアより無料エリアのほうがよいのでは。(藤澤委員)

(A：施設の位置づけを、プロローグやエントランスで見せるよう組み込むことは、現時点の工程で追加可能。組み込み方については、検討したい。)

- 建物の入り口で、簡単なパネル・モニター等で施設の主旨・目的を説明するものがあるとよい。(藤澤委員)

(A：施設の全体像を把握した上でプロローグに入っていくことが望ましいため、検討する。)

- プロローグを見て完結するのではなく、プロローグの映像に“課題”も含めて、さらに深く情報を知りたくなる仕掛けが必要である。(青木委員)
- プロローグで調査・研究事業につなげられるアイデアがあるとよい。(中井委員)
- プロローグの映像の流れは問題ないと思う。最後の部分の見せ方で工夫してほしい。災害の表現として淡々と見せることは賛成。(藤澤委員)

- プロローグ映像は開館後に頻繁に入れ替えることは可能か。(中井委員)

(A：技術的にも頻繁に更新することは難しい。現在の構成では廃炉のことも触れていくが、細かい内容は扱わないようにし、頻繁に更新しなくても対応できる構成で考えている。)

② 災害の始まり

<2-1 事故前の暮らし>

- 意見なし

<2-2 東日本大震災～地震と津波の記録～>

- 意見なし

<2-3 原子力発電所事故の発生>

- チェルノブイリ、スリーマイル、JCO 事故等との比較について、研究者ではない一般の方に説明をするのは難しいのではないか。(中井委員)

(A：検証的な意味を持たせるわけではなく、今回の事故のレベル感を認識してもらうための比較を想定している。委員の指摘と庁内意見を踏まえて説明の仕方は工夫したい。)

- 配達されなかった新聞もあったが、被災した中で配達された新聞もあったため、扱いを検討してほしい。(小野委員)

(A：実物のキャプション等で表現を工夫し、どちらも取り上げられる内容にする等、検討したい。)

<2-4 災害対策本部の記録>

- 意見なし

③ 原子力発電所事故直後の対応

<3-1 避難の開始>

- 震災後改訂された防災計画についても、具体的に取り上げてほしい。震災時、いくら事前に訓練をやっても本番で役に立たないこともあった。そういったことを含め、スペースの問題があるにせよ、アーカイブ拠点施設が訪れる人々の震災への理解や将来に活かすうえで次につながるきっかけになってほしい。(青木委員)

(A：具体的な事例を個別に紹介することは難しいと思慮されるが、詳細はどこで確認できるか誘導できる解説内容を検討したい。)

- 詳しく説明できなくても次に繋げる仕掛けは必要になる。他のコーナーにおいてもこの視点は重要である。(青木委員)

<3-2 県内に広がる不安>

- 避難の過程の部分で、「震災関連死」については取り上げる予定はあるか。福島県としては避けて通れないと考える。(菊地委員)

(A：どのコーナーで取り上げるか検討中。「3-1 避難の開始」または「3-2 県内に広がる不安」での扱いを想定。)

- 地震、津波の被害状況のデータについては「2-2 東日本大震災～地震と津波の記録～」で扱うか。(藤澤委員)

(A：映像とデータを組み合わせて構成予定。)

- ビッグデータの使い方について、津波時の避難など研究につなげるようにできるとよい。原発事故での避難もどうあるべきだったか、を示せるとよい。(小野委員)

(A：前回委員会の御意見を踏まえ、詳細シナリオを再度検討している段階。今回いただいた御意見についても考慮し、検討していきたい。)

<3-3 国内外の反応と支援>

- FUREのメンバーが収集している資料を考えると、このコーナーの実物収集資料はあまりないと思われる。また、双葉町が埼玉に避難されている時の資料は筑波大の白井先生の所に預けられていると思うが、その資料を借用して展示することもあるのか確認したい。(菊地委員)

(A：県で直接収集している資料もあるため、そちらも活用していきたい。また、双葉町や県博での収集資料についても、借用することを想定している。次回の委員会に向けて詳しく検討していきたい。)

④ 県民の思い

- 意見なし

⑤ 長期化する原子力災害の影響

- 意見なし

⑥ 復興への挑戦

<6-1 行政による復興への取り組み>

- 意見なし

<6-2 廃炉の今>

- 廃炉の研究開発を進める JAEA の 3 施設はイノベーション・コースト構想の廃炉研究分野の位置づけもある。廃炉の研究を見せる展示は考えられているか。廃炉の前向きな部分についても見せられると良い。(中井委員)

(A: 「6-3 福島イノベーション・コースト構想の取り組み」で3施設の紹介を検討している。個別の内容については、JAEA にも確認をお願いしたい。)

<6-3 福島イノベーション・コースト構想の取り組み>

- 特になし

<6-4 未来の街>

- 作ったデータが形になったり残ったりするとよい。コンテストの実施、データの持ち帰り、HP での紹介とか。(菊地委員)
- 技術的に難しい部分はあるにしても、イベント時に成果品を披露するなど施設の運営上可能な形で対応できればよいのでは。(藤澤委員)
- データを保存するシステムは作っておいた方が良く、データを保存して二次的に使用する旨も表記した方がよい。(菊地委員)

(A: 紙出力を検討したが、運営上のリスクを考慮し、出力版の持ち帰りはなしとすることとした。ただし、完成した街のデータを蓄積することは可能であるため、運用面も含めて検討したい。)

- 例えば VR を使い所要時間 10 分のうち 8 分で作って残り 2 分で実際に作った街中を歩けるようになると面白いのでは。(中井委員)

(A: 予算面も含めて可能かどうか検討する。)

<6-5 チャレンジ! ふくしま>

- 見学に来た県外の高校生がテレビ電話などを使い双葉郡の高校生に想いを伝えるといった双方向の仕組みが作れないか。震災を経験した人たちだけでなく、むしろ将来を担う若い世代の証言・発信を多く取り上げてほしい。

体験した人の言葉と同じように、災害を経験していない子ども・新しい世代が

増えてきているため、そういった子たちの想いを発信することが大事になる。(青木委員)

(A：展示内でテレビ電話等を行うことは難しい。ただし、研修事業の中で双方向の仕組みができるよう、検討したい。)

(3) 収集資料の現状について

- 事務局より収集資料の現状について、説明。【資料5】

委員からの御意見

- 参考資料2の地図上の色分類は、細かすぎてわからないため、工夫が必要。(菊地委員)
- 行政文書について、デジタル化したデータの保存の問題もあるが、是非原本の文書の保管も検討してほしい。(菊地委員)
- 全ての自治体で記録誌等が発行されてほしい。県の方でもバックアップできるとよい。(小野委員)
- 市町村の伝承施設と県のアーカイブ拠点施設が互いにパンフレットの設置や施設紹介など行い、しっかり連携していけるようにしてほしい。(青木委員)